

## 『かつては！今は？』 エペソ人への手紙2章1～6節 2015.11.1(主日礼拝説教より)

『…あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし…キリストにおいてともによみがえらせ、ともに天の所に座らせてくださいました』エペソ 2:4～6

◆私たちが、イエス様を信じる前(かつて)と、信じた今とでは劇的な変化がある！実感はなくても、イエス様を信じた人の魂と人生と将来に、劇的な奇跡が実現する！だからパウロは祈った…その驚くべき神の祝福を自覚する『御霊が与えられ…心の目がはっきり見え…偉大な神の力を知ることができるように(1:17～19)』と。

◆キリストなき人生の恐ろしさは、『罪過と罪の中で死んで』いたこと(1節)。「罪過」とは「行き過ぎ」の意。お金や趣味は必要…でも、行き過ぎて罪となる！「罪」とは「的外れ」。神の愛と、その神が与えられる人生の目的から外れて自分中心に生きること。私たちは神の栄光を表す(神と隣人を愛する)ために生かされている！自分のために生きる人生は必ず空しくなり、やがて自分自身を見失う(ルカ 9:24)。その結果は「死」！

◆聖書は3つの死を教える。①肉体の死、②霊的な死、③永遠の死。②は神との関係が切れていて、神を呼び起こすことも、神の御声を聴くこともない…(霊的に)死んでいるのだから。あなたは神とのホットラインがいつも繋がっている？③の永遠の死(滅び)に対して、キリストだけが永遠の命(救い)を与えてくださる！あなたを罪と滅びから解放してくださるキリストを知らない人生は最悪である。その生活は『この世の流れに従い／空中の権威を持つ支配者に従い／自分の肉と欲の望むままを行って神の怒りを受ける(1～3節)』。完全にこの世の価値観に支配され、常に隙を窺い、私たちを罪に誘い、地獄へ引きずりこもうとする悪魔に無抵抗だった。

◆5～6節に、イエス様と「ともに」が3回出てくる。イエス様を信じた時、主と共に生かされ、共に甦らされ、共に天の御座に着く者となった！天の高さから見えるのは、まだキリストを知らず、悪魔の奴隷として自己中心のまま生き、苦しみ、争い、殺し合っている大勢の人たち…。泣いてその方々の救いを祈り、涙と共に福音を語り、その救いを喜び祝う者になりたい(詩篇 126:5～6)！